

昨秋、京都に仕事で1週間滞在する機会を得た。仕事は日中のみであったため、朝夕を利用して古都を散策した。

心に残るところが3つ。それは、広隆寺、西芳寺、桂離宮。どう人々を救おうか考えている広隆寺の弥勒菩薩のお姿。数人の高僧が関与しつつも栄枯盛衰を繰り返して、枯れ衰え苔むしたため逆に価値が生まれた苔の寺。月を愛するため訪れる客人を遠近法の魔法でもてなしたお庭。飛鳥から、室町、江戸へと教科書で学んだ日本人の心の故郷にタイムトラベルだ。

未来を考えるために、自分の過去を振り返りましょうと日頃人前で話すが、古都を訪れ歴史を知ると、素晴らしい発見がある。辰年は飛躍の年。皆さんも一度良い時期に、このような静かなひとときを持ち、考えてみることをお勧めしたい。

(M)

数え年では、新年を迎えるごとに年を取ります。人間は生きていく限り誰しも老いるものですが、老いのメカニズムを知っていれば、心の準備ができたり、その速度を緩やかにできるのではないかと。そんな想いで、今号のHEALTHでは「老年医学研究から見ると、老いとは？」をテーマに人体の生命機能を研究されてきた佐藤信紘先生にご執筆いただきました。何かご参考になれば幸いです。

(R)

BOOK REVIEW

人生のヒント  
Vol.34

『きみのお金は誰のため』

田内学 著

[東洋経済新報社、  
2023年10月、1,650円]



書店でタイトルを見た時、てっきり経済や投資といった難しい話を子ども向けにわかりやすく解説してくれているのだろうと思った。同時に、帯に書かれた「経済教養小説」という言葉が気になった。購入しページをめくってみると、最初はやはり子ども向けかと思ったが、ミステリー仕立てのストーリーに次第に引き込まれていった。

小説の主な登場人物は「ボス」と呼ばれる高齢の男性と投資銀行で働く若い女性、それに中学2年生の男子の3人で、ボスから女性と男子に問いが投げ掛けられ、その答えを探していく。「お金自体に価値がない」「お金で解決できる問題はない」「みんなでお金を貯めても意味はない」などボスが放つ言葉は、世間で当たり前と思われるようなことをことごとく否定する。だが、その理由を知るうちに、いかに自分が社会を近視眼的に見ていたかに気付かされた。本書には投資に役立つ小手先の方法は全く書かれていないが、お金の背景を想像する力を養ってくれる。お金とは何か？ 働くとはどういうことか？ これからの日本は？ ボスは言う。「重要なのは、自分で調べて、自分の言葉で深く考えること」。お子さんがいらっしゃる方は、年末年始の家族団らんで本書の感想を語り合ってみるのもいいかもしれない。

(執筆：ライター 更田 沙良)

ご意見をお待ちしております。

ご意見、ご質問、ご感想などをお寄せください。皆様声を、積極的に活かしていきたいと考えております。

E-mail : [alps2@lifeplan.or.jp](mailto:alps2@lifeplan.or.jp)

協会への交通案内

- 東京メトロ千代田線・日比谷線/霞ヶ関駅 C4 番出口より直結
- 東京メトロ丸の内線/霞ヶ関駅 B2 番出口より徒歩3分
- 東京メトロ銀座線/虎ノ門駅 9 番出口より徒歩3分
- 都営地下鉄三田線/内幸町駅 A7 番出口より徒歩3分

ALPS Vol.156 2024年1月発行  
発行 ● 一般財団法人地域社会ライフプラン協会  
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目1番1号  
飯野ビルディング11階  
TEL : 03-6550-8441 FAX : 03-6206-6401  
ホームページ <https://www.lifeplan.or.jp>  
E-mail [alps2@lifeplan.or.jp](mailto:alps2@lifeplan.or.jp)  
編集協力・印刷 ● 株式会社丸井工文社

本書からの無断複写・転載を禁じます。  
本誌は再生紙を使用しています。

